

1コース

プライマリーコース

定員:100名

8月18日(日)

時間 10:00~16:00

会場 大阪歯科大学 天満橋学舎

対象 歯科医師

～歯周外科・インプラント外科に必要な解剖学的知識～

研修費 歯科医師(会員)20,000円、歯科医師(会員5年未満)5,000円
歯科医師(会費未納者、他大学)30,000円

上村 守

大阪歯科大学主任教授(解剖学講座)
死体解剖医検定(系統解剖)

[略歴]

2000年 大阪歯科大学卒業
2002年 大阪歯科大学助教(解剖学講座)
2007年 大阪歯科大学助教(解剖学講座)
2009年 博士(歯学)学位取得 大阪歯科大学
2010年 大阪歯科大学大学院歯学研究科助教(解剖学講座)
2012年 大阪歯科大学大学院歯学研究科講師(解剖学講座)
2013年 大阪歯科大学講師(解剖学講座)
2019年 大阪歯科大学主任教授(解剖学講座)
2019年 大阪歯科大学大学院歯学研究科教授(解剖学講座)

現在の解剖学教育には人体解剖学実習が欠かせない。しかし、この実習は医科・歯科における学生(主に2学年で実施)されるだけである。昨今の医療技術は高度化しており、また、医療機器も充実しているため、実験動物で代用するのも限界が生じている。特に歯科医療に関しては、歯科インプラント手術が開業医でも実施され、大変難易度が高く、残念ながら医療事故も少なからず発生している。そこで、ご献体を使用した手術手技研修(カダバー・サージカル・トレーニング:以下C S T)においては、医科の分野で文部科学省指導のもと日本口腔外科学会・日本解剖学会の「臨床医学の教育及び研究における死体解剖のガイドライン」に基づき、活発に実施されている。しかし、歯科の分野においては、開催回数も少なく、参加人数も少ないのが現状である。

また、海外に渡航し、C S Tを実施する専門学校・研究会も多く存在し、高額な費用で実施されている。そこで、我々は単独の歯科大学という利点を活かし、安価で、安全に、しかも短時間で手術手技がマスターできるように歯科医療に特化したC S Tを過去3年実施した。その実例をもとに、今回は、上顎骨の後歯槽管、下顎骨の下顎管の走行、顎関節の加齢変化を実際の写真を示しながら、臨床で注意すべき血管・神経を解剖学的な見地から紹介する。また、私のライフワークでもある肉眼解剖学やアクリル樹脂血管鋳型法を利用した糖尿病の研究成果にも触れたい。

2

1コース

プライマリーコース

定員:100名



牧草 一人

大阪歯科大学講師(非常勤)(解剖学講座)
日本歯周病学会専門医・指導医

[略歴]

1987年 大阪歯科大学卒業
1987年 大阪歯科大学歯学部助手(解剖学講座)
1990年 大阪歯科大学歯学部助手 研修生終了
1990年 牧草歯科医院 院長
1993年 医療法人社団弘成会 牧草歯科医院理事長
2002年 博士(歯学)学位取得 大阪歯科大学
2002年 大阪歯科大学講師(非常勤)(解剖学講座)
2002年 日本歯周病学会認定医(その後専門医認定へ移行)
2008年 BICMET Dental(現2imWe)グローバルメンター
2008年 JPI(Japanese Institute of Periodontology & Implantology)主宰
2010年 日本歯周病学会指導医
(研修施設医療法人社団弘成会 牧草歯科医院)

歯学部生に「最も苦手な科目は何か?」と質問すると、第1位は解剖学であることが多い。歯科衛生士学校や歯科技工学校でも同様である。その一方で、卒業後の歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士に「今、もう一度聞けるならどの科目を選ぶか?」と聞くと、これがまた解剖学だそうだ。一見矛盾するかのようだが、このようなやりとりはどのように成立するのだろうか。

歯科医学の教育を大きく大別すると基礎系分野と臨床系分野に分けることができる。当然ながら、まず学生は基礎系分野から学び始めるのだが、臨床を経験しない者にとっての基礎医学はただの「暗記もの」でしかない。やがて臨床系分野を学び、国家試験にも無事に合格したのちにふと気がつく。今から思えば解剖学的知識は臨床において非常に重要な情報だった。しかし、いざ卒業してみると、臨床手技を取得するための講習会や学術書を見つけるのは容易なのだが、臨床を見据えたうえでの基礎医学系の講義や学術書はなかなか見つけることが難しい。この状態を「解剖学迷子」といい、冒頭に述べたような会話となって表現されているのだろう。

近年の歯科臨床ではインプラント治療は特別な治療法ではなく、欠損補綴のいちオプションとして確立している。さらに歯周病治療の分野では歯周組織再生療法や歯周形成外科手術などにも注目が集まり、日常臨床において歯科医師が外科的処置を行う機会は少なくない。そこで今回は、約30年間にわたり歯周病治療やインプラント治療の臨床と解剖学教育の二足の草鞋を履き続けてきた私の経験をもとに、歯周病治療とインプラント治療における必要な解剖学的知識について解説したいと考える。

3